

10月23日、エコロードのけんがくにいきました。ぼくがおもっていたけんがくもぜんぜんちがっていました。ぼくがおもっていたエコロードとは、ちきゅうにやさしいだろう、かんきょうにやさしいだろう、そうおもっていました。『そうじゃないんだ、エコロードってしょうどうぶつにすこしでもあんぜんなかんきょうをつくるための、すばらしいだろうでした。』ぼくがエコロードをけんがくしていると、かんじたことは、どうぶつたちは、人間のこと、どうおもっているのかな。1000年前は、おきなわは、みどりいっぱいであつた。ちがたくさんくらしていたとおもいます。いまは、コンクリートや、あすはあるとで、じめんをかためみどりはがいしてきました。でもいまになつてきづいて、もういちどうぶつたちがあんなにみどりをあきなわをめざしているというのです。さいきんどうわにむくふうされていきます。どうわに、で

いぢせんをとおしたり、じんきをとおしたり
そうすればそとにでんちゅうがなくなリ人
ながひろびろしくらせ、じんせんじこもなく
なるというところから、いろいろなくふうがさ
れてきはじめていきます。どうぶつのしがい
がどうろにころがつているところをだれでもみ
たことがあるとおもいます。でも、すこしお
つてきていろということです。でもかん
じんでは、ありません。ぼくは、いつか、し
がいがあるころがつていないどうろを、あめらし
ていきます。